



## 巻 頭 言

インターナショナルオフィス オフィス長 副学長(学術・国際・広報担当) **田島 茂行**



香川大学インターナショナルオフィス(KUIO)が2009年に活動を始め、香川大学の国際活動は大学全体としての戦略的方向性が出てきたと思われる。このたびのインターナショナルオフィスニュース第5号の作成にあたって、皆様の努力に感謝するとともに、一層の御支援・御協力をお願いしたい。

国際活動は広範な分野を持ち、既にかなり日常化していると考え方が多いが、研究面での国際性に比べて、教育面では更に意識的な整備が必要である。学生をグローバルに活躍するように鍛える教育プログラムを直ちに、かつ大規模に整備する必要があるという問題意識は全学的に共通していても、実施にあたってはスタッフ、経費、全学教育と学部教育との連携など、全学的な支援が継続的に必要である。

この10年間、若者数の減少、景気の低迷が続く中で国立大学法人の予算は一貫して削減されてきた。文部科学省資料でも運営交付金は2004年から2010年にかけて830億円削減され、研究者一人あたりの研究時間は22%減り、日本の大学の研究力はこの10年で大きく減少したと報告されている。しかし3月11日の東日本大震災を経験し、国の将来に対する危機意識がみなぎる中で、日本の生き残り戦略としてのグローバル人材の養成という目標は広範に再認識されたのではないだろうか。

香川大学も地域と世界を結ぶ知の拠点を目指すからには、質の高い、グローバルな実践能力を学生に付与する教育プログラムを整備する必要がある。国際教育は技術研修・文化交流としての意義だけではなく、世界の企業、研究機関など世界トップレベルの場での実践力・人間力を養成する教育である。既に香川大学では各種研修や国際インターンシップ、留学生の受け入れ、英語コースの設置が各学部、KUIOの努力で進んでおり、チェンマイ大学とのダブルディグリー制度の実施も射程に入れている。1年生から系統的に国際体験、英語力強化教育を積み上げ、専門教育で知を実践できる人材を養成する教育プログラムは、これから全学的に開発するべき課題である。

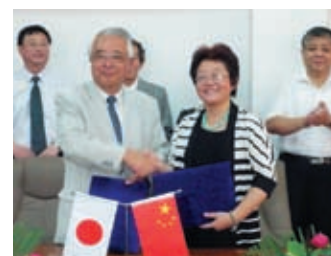
日本企業の技術力、ノウハウの力は定評があり、大学を介した連携が可能である。世界の大学との単位互換、学位互換などを取り込んだ大学の国際標準化を進め、学生がどの大学で教育を受けても単位を得て卒業できるようにするために、香川大学インターナショナルオフィスは率先して努力する所存である。



## 平成23年 前期国際オフィスの活動

### 協定締結調印

- 2011年2月8日 本学教育学部とチェンマイ大学人文学部との学術交流協定に関する実施細則
- 2011年2月21日 本学と誠信女子大学との学術交流協定及び学生交流に関する実施細則
- 2011年3月14日 本学とリモージュ大学との学術交流協定及び学生交流プログラムに関する実施細則、本学工学部及び大学院工学研究科とリモージュ大学国立高等工学院とのインターンシッププログラムに関する協定
- 2011年3月16日 本学とガジャマダ大学、ボゴール農業大学、ハサヌディン大学、愛媛大学、高知大学との熱帯農業に関するSUIJI (Six University Initiative Japan Indonesia) コンソーシアム協定
- 2011年3月29日 本学と北京外国語大学との学術交流協定
- 2011年4月18日 本学工学部及び大学院工学研究科とハルムスタッド大学情報科学部との学術交流協定及び学生交流プログラムに関する実施細則、インターンシッププログラムに関する協定
- 2011年5月30日 本学と武漢理工大学との学術交流協定及び学生交流プログラムに関する実施細則、本学工学部及び大学院工学研究科と武漢理工大学工科系学院の学術交流協定書に関する実施細則
- 2011年7月29日 本学医学部及び大学院医学系研究科とチェンマイ大学医学部及び大学院医学系研究科との学術交流協定に関する実施細則
- 2011年8月15日 本学と河南農業大学との学術交流協定及び学生の交流に関する実施細則、本学農学部及び大学院農学研究科と河南農業大学林学院及び大学院研究科との学術交流協定に関する実施細則



河南農業大学調印式



北京外国語大学調印式

(国際グループ 古島 愛)

### インターナショナルオフィスFD・SDワークショップ(第1回、第2回)

インターナショナルオフィスでは、平成23年6月2日(木)に第1回、平成23年8月2日(火)に第2回インターナショナルオフィスFD・SDワークショップを開催しました。場所はいずれも幸町キャンパス研究交流棟研究者交流スペースの他、医学部、工学部、農学部の各キャンパスから遠隔会議システムを使用して実施され、第1回は35名、第2回は30名の本学教職員が参加しました。

第1回は、「本学における学生の海外派遣の現状と課題」について、インターナショナルオフィス正楽講師、経済学部高木教授、工学部高橋教務職員から発表がありました。

第2回は、「本学各学部における学生の国際交流プログラム(受入れ・派遣)の実情と展望について」、インターナショナルオフィス塩井講師、教育学部バテン講師、経済学部ラナデ教授、工学部澤田教授、農学部合谷教授、医学部徳田教授から発表がありました。

第1回、第2回とも、発表後には各部局の学生の海外派遣に関する現状の報告や、インターナショナルオフィスに対する要望、提案なども含め活発な意見交換があり、今後各部局と協力して国際交流を推進していくための貴重な意見交換の場となりました。

(インターナショナルオフィス 正楽 藍)



第1回ワークショップ



第2回ワークショップ

## 各部署の国際交流

### 留学生交流支援制度の採択

日本学生支援機構による「平成 23 年度留学生交流支援制度（ショートステイ(SS)、ショートビジット(SV)）」に関して、本学から5件のプログラムが採択されました。

部局名	プログラム名
医学部	チェンマイ大学・香川大学での実習を通じて学ぶアジアの医学・看護学の現状
医学部	PBL チュートリアル教育と OSCE の体験学習を通じた医学教育のグローバル化
教育学部	チェンマイ大学異文化交流プログラム
教育学部	コロラド州立大学異文化交流プログラム
農学部	東南アジアなどの食品安全実践教育に関する大学間相互交流プログラム

本制度は、3ヵ月未満の留学生受入れ、派遣に関するものであるという点が特徴で、国際化推進を目的としています。留学生に関する事業であるため、申請に際しては留学生センターが支援を行いました。

また、プログラムの中には、日本語、日本文化に関わるものが含まれているため、留学生センターが実施面でも連携・協力することになりました。  
(インターナショナルオフィス 高水 徹)

### 教育学部－国際交流委員会 国際交流行事

#### ●平成 23 年 6 月 3 日(金)

クライストチャーチ・ポリテクニク工科大学留学コーディネーターの林英樹氏による危機管理セミナー & 留学説明会を開催しました。2月の地震の際、同大学の迅速かつマニュアルにとらわれない柔軟な対応について話を聞くことができ、大変貴重なセミナーとなりました。

#### ●平成 23 年 7 月 13 日(水)

留学生と教職員及びチューターの学生との親睦を深めるために、「第1回留学生を囲む会」を開催しました。留学生、チューター、教員をあわせて約40名が集まりグループ討議をしました。討議後、グループごとに話し合ったことを発表し、日本で生活などについて、意見交換をしました。

#### ●平成 23 年 7 月 27 日(水)

コロラド州立大学の Mako Beecken 先生を講師として招き、国際交流研究会を開催しました。同大学の紹介、環境問題・リサイクルの取り組み、また、演劇を学習に取り入れることによる「おもしろくて楽しい」学習意欲の向上等について話を聞くことができました。

続いて、タイへの留学を希望する学生が集まり、チェンマイ大学異文化交流プログラム説明会を開催しました。  
(教育学部 高木 由美子)



地震発生時の様子を語る林英樹氏



グループ討議の様子



日本語教育について語る Mako 先生



チェンマイ大学について説明するバテン先生

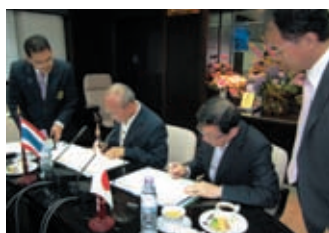
## 医学部－ブルネイ・ダルサラーム大学およびチェンマイ大学の訪問交流を実施

阪本晴彦医学部長をはじめとする訪問団が、平成23年7月24日(日)～28日(木)にブルネイ・ダルサラーム大学を、7月28日(木)～31日(日)にチェンマイ大学を訪問しました。Summer Medical Seminar 2011(6名の医学部学生が参加)の視察や、ブルネイ・ダルサラーム大学および同国保健省との糖尿病・肥満関連の共同研究についての具体的なプロジェクトについて議論しました。訪問団は広瀬哲樹在ブルネイ日本国大使を表敬訪問し、香川大学医学部の活動報告を行いました。

チェンマイ大学では、医学部(ニウェ医学部長)との間で学術交流実施細則の調印式が挙行されました。調印式の後に、学生や研究者の人的交流や共同研究について議論を交わし、両医学部の協力体制を継続する



留学中の学生6名と教員とで広瀬哲樹日本大使を訪問



両医学部長による実施細則調印式

ことを確認しました。一行は、看護学部を訪問し、看護学科との交流の打ち合わせを行い、医学科同様に実施細則をできるだけ早い時期に締結するように努力することを約束しました。さらに柴田和夫在チェンマイ日本国総領事を訪ね、活動を報告し支援を依頼しました。(医学部 徳田 雅明)

## 工学部－国際インターンシップ交流会開催

国際インターンシップは今年度で12年目を迎え、恒例の国際インターンシップ交流会が、平成23年7月23日(土)工学部1号館11階ラウンジで開催され、約60名が参加しました。国際インターンシップに関わりのある国際交流機関・団体、ホストファミリー登録をしている地域の方々、学生、

教職員と多彩な顔ぶれが集い交流を深めました。今年は、3月の東北地方太平洋沖地震の影響が心配された中、協定校であるフランスのポリテク・アヌシー・シャンベリーから1名が来日しました。また、工学研究科から、フランス、フィンランド、ドイツへ各1名を派遣予定です。なお、3年前から始まった協定校訪問事業で、9月下旬にネパールのトリブバン大学へ3名の学生が訪問します。(工学部 澤田 秀之)



国際インターンシップ交流会での集合写真

## 工学部－課外英会話クラス 学期末交流会

平成23年7月27日(水)、工学部1号館11階ラウンジで、工学部英会話クラス受講者約10名が参加して、学期末の交流会を開催しました。工学部では実践的な英語を楽しみながら身につけるために、課外クラスとしてネイティブの先生による少人数制の英会話クラスを実施しています。学期末には、受講者の成果を試す機会になるよう、ゲストスピーカーを招いてピザパーティーを開きます。

今回は、工学部にインターンシップ留学中のフランス、サボア大学の学生をゲストスピーカーに迎え、また地元ロータリークラブのご協力を得て、米国テキサス州サンアントニオからの短期交換留学生2名にもご参加いただき、工学部の学生が国際交流を深めるいい機会になりました。

(工学部 澤田 秀之)



英会話クラス学期末交流会の様子



参加者 集合写真

## 農学部－SS&SVプログラムによるショートステイ学生の受け入れ

### ■ 副学長を表敬訪問

平成23年8月26日(金)、本学農学部にはショートステイする外国人学生(以下、SS学生)13名が本学田島副学長を表敬訪問しました。

本学からは、田島副学長、早川農学部長、田村農学部教授他が出席しました。田島副学長から歓迎の挨拶、早川農学部長から本プログラムの主旨の説明の後、SS学生はそれぞれ自己紹介を行いながら、本プログラムへの意気込みを語っていました。また、田村農学部教授他から、サポート体制についての説明があり、SS学生は熱心に耳を傾けていました。

SS学生は、本学の協定校である、浙江工商大学、南京農業大学(中国)、チュラロンコン大学、チェンマイ大学、カセサート大学(タイ)、カリフォルニア大学デービス校(アメリカ)に在籍している学生です。8月26日(金)から9月26日(月)までの約1ヶ月間、本学農学部において、「東南アジアなどの食品安全実践教育に関する大学間相互交流プログラム」に参加します。今後、オリエンテーションを受けた後、日本語初級や食品安全に関する授業を受講、冷凍食品関連会社にてインターンシップ、工場見学など、日本の食の安全について実践的に学ぶ予定です。  
(農学部 田村 啓敏)



田島副学長から歓迎の挨拶



意気込みを語る学生



副学長から学生代表へ土産贈呈



笑顔で記念撮影

### ■ 日本語授業

8月26日(金)より、農学部におけるショートステイ(短期受け入れ)プログラムが始まりました。留学生センターとしても、日本語・日本事情に関する授業提供を通じて協力します。1ヶ月のプログラム中で計6コマという短時間ではありますが、日本滞在中に役立つ簡単な日本語(挨拶、自己紹介、買い物の表現など)を学びます。本稿執筆時現在、2コマの授業が終わりましたが、毎回、農学部在籍中の留学生数名が日本語学習の先輩として授業をサポートしてくれ、お互いに交流しながら和やかな雰囲気の中で学習が進んでいます。

(インターナショナルオフィス 塩井 実香)



中国人学生・アメリカ人学生と本学留学生



タイ人学生と本学留学生



マンツーマンでの日本語指導

## 国際研究支援

### 国際化推進のための重点研究分野・テーマを決定

大学の国際化に取り組むインターナショナルオフィスでは、本年 1 月に「香川大学国際化の基本方針と重点戦略課題」(内容はオフィスニュース 4 号に掲載)を策定しました。これに基づき、下記の 4 テーマを、社会・経済のグローバル化や地球規模の課題に対応し、香川大学として広く国際社会に貢献できる「国際化推進のための重点研究分野・テーマ」に選びました。

(平成 23 年 6 月 28 日 インターナショナルオフィス会議承認、平成 23 年 7 月 7 日 役員会報告)

#### 1 アジア諸国等における糖尿病・肥満の克服に向けた包括的研究、並びに希少糖を中心とした糖生命科学及び遠隔医療システムの国際的展開

アジア諸国における糖尿病や肥満の進行に対し、尿バンク等の活用による先進的な医療システムの確立に加え、食や生活習慣などの改善を含む公衆衛生・社会科学的な対処方策を立案し、学部横断的な国際共同研究を進める。さらに希少糖を中心とした糖生命科学の活用や、K-MIX に代表される遠隔医療の国際展開の可能性を模索し、それらの成果も取り入れる。

#### 2 アジア諸国等における食品の安全に関する標準化研究、並びに地域農水産品のグローバル展開に向けた食品加工技術の開発・普及

アジア人財事業の実践を通じ、本学は既に食の安全・安心に関する独自の研究・教育プログラムを構築している。本プログラムを基に、アジア諸国等でニーズの高い食品分野での食の安全に関する標準化、食品加工技術の高度化と普及、並びに食品分野におけるグローバル人材の育成を推進する。

#### 3 人間支援分野を中心とする先端的メカトロニクス研究の国際共同展開

本学は日仏 11 大学が参加する国際メカトロニクス研究教育機構 (IOREM) コンソーシアムメンバーの日本側幹事校として、国際間の共同研究や共通教育を主導している。研究成果のビジネス展開も視野に入れている本コンソーシアムを活用し、人間支援分野等におけるメカトロニクスの国際的な共同研究を推進する。

#### 4 瀬戸内海を介した、世界の内海領域の文化・芸術・産業等の育成・創造と発信に関する国際共同研究

自然・観光資源として国際的にも評価・関心が高く、広範な研究対象ともなっている瀬戸内海を中核に、地中海、バルト海等の先端的な内海領域を結び、各海域の拠点大学や都市と連携した「内海国際プラットフォーム」を構築し、各海域の課題を巡る国際共同研究、国際シンポジウムを実施するとともに、芸術・文化・産業面での相互交流・情報発信等を推進する。

## 平成23年度国際研究支援センター研究会シリーズ第1回、第2回を開催

国際研究支援センターでは、香川大学が海外教育研究拠点として位置づけ、国際的な研究・交流の重点対象としている大学と、その国（タイ、ブルネイ、フランス）を中心に進んでいる研究プロジェクトの紹介・拡充を目的とした研究会を開催しました。各回とも、キャンパスを遠隔会議システムでつなぎ、研究の経緯や現状・課題などについて情報共有するとともに、国際共同研究のより一層の進展に向け、複数の学部が連携・協力する必要性、可能性などについて意見交換しました。

### 第1回

#### 「東南アジア地域の糖尿病・肥満克服プロジェクトーブルネイ、タイとの連携強化を目指してー」 (平成23年6月27日)

医学部では、糖尿病や肥満の克服を目指した多様な取り組みが行われています。その取り組みの成果を基に、東南アジア諸国においても急速に深刻な問題となっている糖尿病や肥満の予防に関し、ブルネイ・ダルサラーム国やタイ王国の大学や行政と協力して、本学で今後どのような国際共同研究や国際支援活動を展開できるかについて、医学部の徳田雅明教授、村尾孝児教授、西山成教授、平尾智広教授からの報告を聞き、参加者全体で議論しました。

### 第2回

#### 「サボア大学と香川大学を核とした日仏大学の広域交流」 (平成23年7月22日)

工学部とフランス・サボア大学は、国際インターンシップの協定を結んでおり、これまで50人以上の学生が相互に参加・交流しています。本研究会では、このようなインターンシップ制度が、教員の交流や国際共同研究を活性化させ、さらには他大学も含めた広域の交流へと広がってきた経緯について工学部の秦清治教授が報告し、国際交流を持続的に発展させるための要素やポイントを共有・確認するとともに、他学部におけるフランスとの交流の活性化方向などについて意見交換を行いました。

(インターナショナルオフィス 細田 尚美)

糖尿病尿バンクの設立に向けた  
取り組みについて紹介する  
医学部 西山成教授  
(写真手前左)



サボア大学との交流の  
経緯を説明する  
工学部 秦清治教授

## 学生向けガイダンス・研修・説明会

### 春期新入留学生ガイダンス・歓迎会

平成23年4月9日(土)に、新入留学生27名(中国19名、韓国4名、タイ2名、台湾1名、マレーシア1名)を迎えて、新入留学生ガイダンスと歓迎会を行いました。両行事には、新入留学生のチューターを担当する日本人学生・先輩留学生も一緒に参加しました。

従来どおりの生活面・学業面に関する説明や情報提供のほか、今回のガイダンスでは、初めての試みとして高松北警察署による法令順守や薬物への注意、自転車のマナー等についての説明・実演も行いました。また、ガイダンスに先立ち、留学生会館入居者のみを対象に実施した会館ルールに関する説明会も、今回初めての試みでした。これらはいずれも、一定の効果が見込めることから、今後も継続していく予定です。

ガイダンス後の歓迎会では、地域の方々もご参加くださり、賑やかで楽しいひとときを過ごすことができました。  
(インターナショナルオフィス 塩井 実香)



ガイダンスにて、県警の方による自転車マナーの講習



歓迎会の様子

### 海外留学ガイダンスの開催報告

平成23年5月25日(水)、本学インターナショナルオフィス・留学生センター主催「海外留学ガイダンス」を開催しました。

海外留学に関心をもつ学生(参加者34名)を対象に、本学の海外留学プログラムや学術国際交流協定校の紹介、夏休み期間中の海外(オーストラリア、カナダ、韓国、中国)の大学での短期語学研修の詳細などについての説明を行いました。また、昨年度、カナダの大学での語学研修を終えて帰国した井上裕希奈さんと中磯邦香さん(教育学部4年生)が体験報告をし、これから海外へ出ようとする参加学生らへ、研修で学んだことを伝えてくれました。  
(インターナショナルオフィス 正楽 藍)



体験報告をする井上さんと中磯さん



ガイダンスを聴く参加学生ら



## 第15回 日本語語学研修プログラム

平成23年6月27日(月)から7月8日(金)までの2週間、台湾の真理大学より8名、韓国の韓国海洋大学より4名、計12名を受け入れて、第15回日本語語学研修プログラムを実施しました。日本語・日本事情の授業のほか、華道・茶道・書道といった文化体験や、栗林公園・四国村の見学も行いました。夏季ならではの体験として、華道の際に全員が浴衣を着たりして、いずれも良い思い出になったようです。茶道と書道においては、本学の裏千家茶道部と書道部の皆さんに講師を依頼し、学生同士の交流も広がりました。また、毎回そうであるように、地域のホストファミリー宅での週末3泊4日のホームステイも、大好評でした。



四国村の見学

今回は、11ページにもあるように、初めて本学学生による研修の支援体制として「香川大学 BUDDIES」という、取り組みをしました。また、研修生の中には、時間外に自転車で庵治まで行ったり、1人で小豆島旅行をしたりする学生もいるなど、教職員にとっても印象深い2週間になりました。

(インターナショナルオフィス 塩井 実香)



浴衣を着ての華道体験



栗林公園 日暮亭にて

## チェンマイ大学における渡日前遠隔日本語授業

留学生センターは、チェンマイ大学の学生を対象に、日本語の遠隔授業を実施しました(平成23年6月22日(水)から7月27日(水)。週1回で全6回)。参加したのは、留学予定がある学生や、日本、日本文化に興味のある理系の入門・初級レベル学生です。この試みのように入門レベルの学生を対象に遠隔で授業を行うことは大変珍しく、今回も成立のためには工夫を要しました。

1点は、遠隔実施の前に、現地で導入授業を対面で実施したこと、もう1点は、事前に自学することを前提としたことです。加えて、日本文化に関する紹介等を行うことにより、興味が継続するようになりました。

留学予定の学生にとっては、復習の機会となっただけではなく、先輩留学生とのつながりも強化され、渡日前に留学に関する疑問を解消することができました。

接続に問題が発生したり、途中で映像が乱れたり、音質面での問題により、うまく聞き取れなかったり、全て順調に進行したとは言えませんが、今後本学への留学生受入れをよりスムーズに行うためには大きな一歩となりました。今回の経験を活かし、留学前の低学年段階においても日本語に触れておく機会を設けることができれば、理系留学生の就職を含む進路の多様化により対応しやすくなるでしょう。

(インターナショナルオフィス 高水 徹)



TV会議システム



相談を受ける先輩留学生

## 留学生のリクルーティング活動

### 国内・海外におけるリクルーティング活動

ここでは、日本語学校で学ぶ留学生対象の説明会や、オープンキャンパスでの活動、さらに海外における日本留学フェアについて報告します。

6月から7月にかけて、日本語学校の留学生や教員向け説明会に5回参加しました。会場は大阪、岡山、福山です。最近では長年参加している JASSO 主催の説明会に加えて、特に岡山での広報活動に力を入れています。その理由は、毎年岡山の日本語学校から本学に進学する留学生が多く、地理的条件を考えれば、今後多くの留学生の入学が見込めるからです。

そして、実際に岡山の会場では、同じ説明をして、同じ質問を受けた場合でも、他の会場よりも具体的で、より真剣に本学への進学を検討している様子が伝わってきます。実際に、岡山ビジネスカレッジの説明会では、本学の部屋を訪れた学生は、参加校の中で最も多かったようです。

上記に加えて、本稿執筆時点ではまだ実施していないのですが、9月に高松で穴吹ビジネスカレッジ日本語学科の学生を対象とした説明会を実施します。本学にとって最も身近な日本語学校の学生に対する広報の機会が与えられ、大変喜ばしく思っています。

これらの国内での広報活動の一環として、今年度は初めて留学生センターとしてオープンキャンパスに参加しました。研究交流棟にブースを設け、学生の海外留学や国際交流の情報を提供するという試みでしたが、残念ながら来訪者が非常に少なかったため、次回は方法を再考したいと思います。

さらに、今年度も海外での日本留学フェアに参加しています。平成 23 年 9 月 2 日(金)、4 日(日)に、タイのチェンマイ、バンコク会場にて、ブースを設けました。

チェンマイ会場では、本学では農学部で扱われる分野に多くの関心が集まりました。全体としては高校生の参加が多かったことが印象的です。これらの高校生の比較的多くは、高校の用意したバスによって、教員に引率されてきていたようです。

一方で、バンコク会場では、大学生の参加が多く、したがって大学院関連の質問が多くありました。分野としては工学系が多かったのが特徴です。もう一つの特徴として、国際コース(英語コース)の存在を何度も問われたことがあります。

全体として、タイからも私費留学の動きが広がりつつあるようですので、多様な分野から本学への興味が集まり、留学へとつながってくれることを願っております。(インターナショナルオフィス 高水 徹)



JASSO 主催の進学説明会 (大阪)



日本語学校での説明会(岡山ビジネスカレッジ)



上段左から濱田国際グループリーダー、高水講師、下段左から本学に留学予定のブーさん、チェンマイ大学のベンさん(通訳)、岡山に留学予定のフルックさん



バンコク会場

## 世界・地域との交流活動

### 北京大学学生との交流会

中国の北京大学現代日本研究センター博士課程の学生 19 名が、日本に関する知識・見聞を深め、日本研究のレベルアップを図るため来日しました。香川県による研修も予定されており、その一環として、平成 23 年 7 月 25 日(月)に香川大学にて、本学学生 41 名との交流会を開催しました。

### 世界食文化

平成 7 年以来、綾川町は毎年「世界食文化」というイベントを開催しており、留学生センターでは平成 10 年から国際オフィスのロン副オフィスが調整役をしています。今年度は、平成 23 年 8 月 6 日(土)、本学の留学生 7 名を引率して、綾川町の方々とお国自慢料理や郷土料理を共同作業にて作り交流会を実施しました。試食後、留学生たちは和太鼓演奏を堪能し、また、実際に太鼓に触れる経験をしました。



### 夏の日帰り旅行(男木島)



平成 8 年以来、香川大学留学生会 (KUFSA) と香川大学異文化交流会 (ICES) は瀬戸内海に浮かぶ島をひとつ選んで、日帰り旅行を企画してきました。今年は第 15 回、行き先は男木島でした。参加者は 111 名、国籍は 11 でした。このイベントの目的は瀬戸内海的美しさを学生たちに味わってもらうと同時に学生同士が気軽に交流出来るようにすることです。

(国際オフィスのロンリム)

## 学生の交流活動

### 香川大学 BUDDIES

年に 2 回、留学生センターは「日本語語学研修プログラム」を実施しています。海外協定大学を中心的に参加して来る研修生たちを案内しながら、交流するという趣旨で、今年初めて、「香川大学 BUDDIES」という取組を行いました。登録した BUDDIES の人数は 27 名、研修生たちが高松駅に到着してから、2 週間に渡って、学生同士の交流をしました。

### ランチプレゼンテーション会

日本人学生と留学生との間で「日ごろの交流」をはかるという目的で、ランチプレゼンテーション会(通称 LP 会)を試行的に実施しました。発表内容を話のネタとして、日本と外国に関する知識を深めると同時に、プレゼンテーションの技を磨く機会を提供するという狙いもあります。毎週月曜日の昼休みに、留学生や日本人学生が集合し、各自で用意するランチを食べながら実施しました。半年間、合計 16 回のプレゼンテーションで、参加者は延べ 413 名(そのうち、留学生は 138 名、日本人は 275 名)になりました。



(国際オフィスのロンリム)

## 留学生の声

### Experiences as a student and a foreigner in Japan

Thapanee Samta (Thailand)

I came to Japan in October 2010. So, I have been living in Japan for almost a year. After I arrived, I had many things to do as I was a new resident here.

I have a tutor who is Japanese. She assisted me to get set up in Japan, such as helping me with my apartment, taking me to open a new bank account, bringing me to city hall to get an alien registration card and others things that I could not do by myself since I have problems communicating in Japanese. After these things were done, it was time for me to study Japanese language, to get to know more about Japan and to become more independent.

Fortunately, at the end of October I was invited to attend an event that is held every year by the Miki-Cho International Exchange Association. I decided to attend although most foreign students of Kagawa University did not do so. At the event, I met a person called Chiaki. She has totally changed my life in Japan. Now she has become my 'Japanese mother'. When we first met, we had general conversations. We get along quite well, and she invited me to join a Christmas party at her house on December 23rd. At that party I got to know a lot of people; not only just Japanese people but also foreigners. Chiaki is an elementary school English teacher and she has a lot of foreign friends. All of these foreign friends are in the Japan Exchange Teaching Program (JET) and they teach English at elementary and junior high schools in Kagawa. I got to know some

of them through Chiaki and I have been listening to their talks about teaching English to the cute Japanese kids. I totally agree that Japanese kids are very cute after spending a day with them at Chiaki's.

There is an organization called Kagawa Foreigners United Network (K-FUN) and I am a member. K-FUN hosts some good events for foreigners in Kagawa and the events are announced in Facebook. Moreover, if somebody has a problem about living in Kagawa, they can post a question on K-FUN Facebook and others will try to help or solve the problem. All of this makes me realize that even though we are not in our own country, we are also not alone in Japan because people always get together to help one another. After I leave Japan, I will always remember that the Japanese people are the kindest people ever.

Thapanee Samta  
Safer For Frozen Food  
Career Development Program  
Kagawa University, Japan



左から 2 番目が筆者



2 列目左から 2 番目が筆者

## インターナショナルオフィスからのお知らせ

- ホームページをリニューアルしました。留学生や海外留学に興味のある学生にとって有益な情報を随時アップしますので、見てください。
- 10月31日(月)に、全学学生を対象にした海外留学に関するガイダンスを実施予定です。詳細が決まりましたら広報しますので、海外留学(短期の語学研修、1年以内の交換留学、海外の大学院への進学等)に興味のある方は、是非ご参加ください。
- 今年度後期に、本学の全留学生を対象とした「生活実態調査」を実施予定です。こちらも、詳細が決まり次第周知をしますので、留学生の皆さんは全員ご協力ください。関係の教職員におかれましても、留学生への周知のご協力を、よろしくお願いいたします。

香川大学  
インターナショナルオフィスニュース  
第5号 2011(平成23年).9.30

香川大学インターナショナルオフィス  
〒760-8521 高松市幸町1-1  
Tel : 087-832-1194 Fax : 087-832-1192  
E-mail : soryugase@jim.ao.kagawa-u.ac.jp  
URL : <http://www.kagawa-u.ac.jp/kuio/>